

## 題材名「折れ線グラフ」

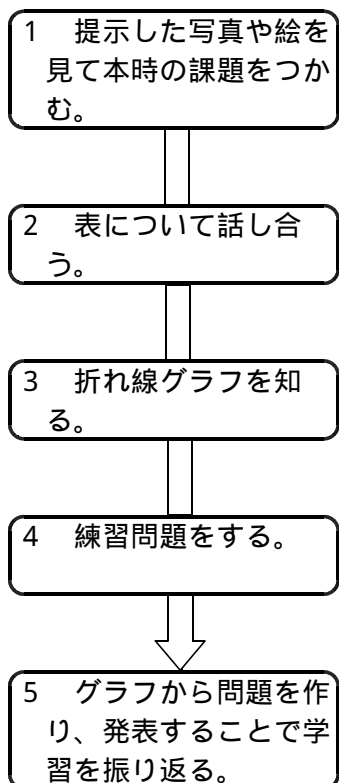
### 目 標

- (1) 折れ線グラフに表すよさを生かして、進んで折れ線グラフに表したり、身の回りにある折れ線グラフを活用したりする。
- (2) 変化の様子がよくわかるグラフに作りかえる方法を考えたり、変化の特徴を傾きから考えたりすることができる。
- (3) 折れ線グラフをよんだり、かいたりすることができる。
- (4) 折れ線グラフの特徴がわかる。

### コンピュータを活用する利点

折れ線グラフのよみ方について、ICTを活用し変化の様子を視覚的にとらえさせる。

### 授業の流れ



### ICT 活用場面

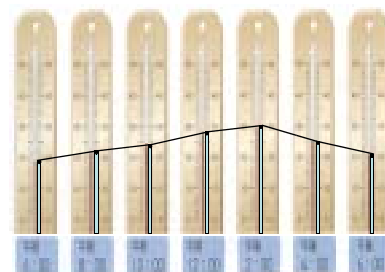
導入時に教科書の写真をスキャナーで取り込み、提示した。また、時刻別の気温が温度計で示されているのも同様にプロジェクターで写しだした。提示した温度計の先端に点を付け、つなぐことで棒グラフが折れ線グラフになることを視覚的に示した。



折れ線グラフの変化の具合を色別で示し、「増えている」、「減っている」、「変わらない」状態が理解しやすいように表した。

### 成果と課題

単元の導入時にプロジェクターを使用したことで、児童は、興味をもって新しい単元と向かい合うことができた。内容では、変化の様子を表すグラフが、動的かつ視覚に訴える提示の仕方だったので、児童は理解しやすかった。また、補助線の引き方等も視覚的に指導できた。特に、グラフの読み方に効果があった。授業での「ふりかえり」では、自分が学んだことを使って折れ線グラフの問題作りをしたが、折れ線グラフの特徴をつかみ、本時の目標に沿った問題を作ることができた。



しかし、プロジェクターで映し出される画像は、次々に変わっていくため、知識が児童の中で深まりにくい。今回、プロジェクターで映し出された画像と同じものを、黒板にも貼るようにした。板書は、「この一時間にどんな学習をしたか」が明確になり、問題をとく鍵にもなる大切なものなので、絶対に必要である。PCを使うと、プロジェクター画像と板書の二重の提示となるので、授業の組み立て方が今後課題となる。

### ICT 活用環境等

使用周辺機器	プロジェクター パソコン
使用ソフト名	マイクロソフトパワーポイント
使用教室	普通教室